

米軍無人機 MQ-9 の一時展開に関する住民説明会概要

開催日時	令和4年6月5日(日) 14時00分～15時45分
開催場所	野里集落センター
出席者	市内：38人 ※報道関係者除く
質疑応答の概要	<p>○ 自衛隊自身が米側から技術を学び、日本独自で無人機を所有する考えがあるか。 → 自衛隊全体の情報収集能力を高めている最中であり、その過程で日本だけでは補いきれない部分もあるため、米軍の一時展開を予定しているもの。自衛隊としてもノウハウを得る機会になると捉えている。</p> <p>○ 無人機の展開によって、敵の標的になるのではないか。 → 今回の無人機には武器を搭載することはできず、あくまで情報収集を行うのみ。この機体で隙のない情報収集を行い、日本周辺で特異な動きが起きることを抑制し防止するもの。我々が周辺国に対して挑発的な行為を行うものでは決していない。</p> <p>○ 東シナ海の状態を見ると、監視活動の期間が一年間限りで良いのか。展開が常態化する懸念もある一方で、監視活動が一年で終わって良いのだろうかと思う気持ちもある。 → 周辺環境が厳しい中でどのように情報収集能力を高めていくかは、重要な課題であり、自衛隊としても情報収集能力を高めている最中である。その中で、今回の一時展開については日米間で一年間としている。</p> <p>○ 市民の理解が十分に得られなかった場合でも一時展開は行われるのか。 → 地元の理解を得ていくことが必要であり、丁寧な説明に務めて参りたい。今回の件については、防衛省の務めとして、防衛のために絶対に取り組まないといけないと確信をもって進めている。住民説明会での説明の機会や鹿屋市議会、基地関係連絡協議会にも説明をさせてもらった中で、いただいた疑問や不安点についてはできるところから確実に具体的にし、説明を行ってきている。</p> <p>○ 公務外における米兵の日本人に対する事件事故等のリスクが無いと言えるか。 → 通常の日本における事件事故以上に、米軍に起因する事件事故のリスクは無いと考えている。事件事故が起きて泣き寝入りになるようなことは無い。 公務外において一次裁判権は日本側にあり、日本の法律で処罰することになる。仮に米軍基地内に罪を犯した者が逃げた場合であっても、米側が身柄を拘束し、日本の警察が米側と連携を図りながら捜査の上、起訴がなされた場合には日本の法により裁かれることになる。</p> <p>○ 仮に米兵が通勤中に事故を起こした場合は公務扱いとなるのか。制服を着てコンビニへ行った場合はどうなるのか。また事故を起こしたものが、自衛隊施設内に逃げた場合の取扱いはどのようになるのか。 → 通勤は基本的には公務扱いとなる。制服を着てコンビニへ行った場合などが、公務外になるかどうかは、時間等状況によって総合的に判断することになる。公務中での事故については、一般の事故と同様の対応となり、国が補償する形となる。事故を起こし、当て逃げやひき逃げをした場合は、その行為自体が公務ではなくなり犯罪として扱われ、米軍の憲兵が身柄を確保した場合でも、日本の法で裁かれる。 なお、米兵は仮に基地の外でトラブルを起こした場合には、警察等に連絡しなければならないと教育されている。警察は現場に行き事情聴取をするのが基本であり、悪質であればその場で逮捕できる。罪を犯した者が基地内に逃げたとしても憲兵が身柄を拘束し日本の警察と連携して捜査を行う流れとなっている。</p>

- 沖縄国際大学でヘリが墜落した時、日米地位協定により日本の警察は排除された。日本人として残念である。日米地位協定を見直すべきではないか。
 - 平成16年8月の沖縄国際大学でのヘリの墜落事故の後、平成17年4月に日米でガイドライン（※）を作り、日本と米国双方で内周規制線を管理し、外周規制線は日本側で管理することになった。これにより、内周規制線内に立ち入る必要がある場合には、日米が連携して対応することになる。
 - ※日本国内における合衆国軍隊の使用する施設・区域外での合衆国軍用航空機事故に関するガイドライン

- 1年間という期間が決められているから、民間のホテルへ宿泊するという理解で良いか。日本の文化やホテルでのマナー等は大丈夫か。
 - 今回は1年間の展開であり、常駐化は考えていないため、1年間であればホテルでの滞在が望ましいのではないかと考えた。日本の文化やホテルでのマナーについては、米側にも理解してもらわないといけないのは当然で、米側としっかり話をしたい。
 - なお、新たに米軍人が日本にやってくる場合には十分に研修を受けることになっている。米側としても地域のコミュニティに溶け込もうとしている。

- 国内における無人機の状況を教えてほしい。
 - 青森県の三沢基地にRQ-4 グローバル・ホークという機体が展開している。これは航空自衛隊が今年から同じく三沢基地に導入している無人機と同じタイプのもの。グローバルホークについては横田基地でも展開をするようになっていく。
 - また昨年からは、MQ-4 トライトンを三沢基地に初めて展開した。今年、岩国基地でも展開するように調整しているところである。
 - このように無人機は10年程前ぐらいから導入されており、これまでのところ安全な飛行ができていることを確認している。

- 治安が心配である。7月からの展開というのは早すぎるのではないか。
 - すべての米軍人は日本に来る際には、日本の法律、習慣、交通ルールなどについてしっかり教育をする。また、規律を守ることを徹底し、MPを配置する。

- 在日米軍の勤務時間外行動の指針（リバティ制度）とはどのような制度なのか。
 - すべての軍人は区域外の公の場における飲酒は午前0時から午前5時まで禁止。
 - 外出時間制限については、階級E-5（3等軍曹相当）以下の軍人は午前1時から午前5時まで禁止などである。

- 日本の無人偵察機ではいけないのか。
 - 自衛隊自身の取組も進めているところだが、昨今の情勢の中で手が回りきらない現状があり、今回の一時展開を予定しているもの。

- 鹿屋市は基地とともに歩みこれまで発展してきた。ヘリの墜落事故が起きたことは皆話題に取り上げるが、竹島が不法占拠されていることや飛翔体が日本の排他的経済水域内に落下したことについては誰も声を挙げない。昨今の情勢を鑑みても、日米間において様々な協力を行う必要があることを確認していると感じている。
 - 防衛省には地域の安全を守りながら、鹿屋が盛り上がるような支援策を考えてもらいたい。また誠心誠意対応をしてもらいたい。
 - 地元の理解があってこそその自衛隊、防衛省である。引き続きご指導ご鞭撻いただきたい。